

6. 事業内容	当事業は、持続可能な開発目標のターゲット 3.4「2030 年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて 3 分の 1 減少させ、精神保健及び福祉を促進する。」および、ターゲット 16.1「あらゆる場所において、すべての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。」の達成に寄与する事業である。 1. ガザ地区における心理社会的ケアの実践と人材育成 ラファ市の「エルアマル社会復帰協会」、ハインユニス市の「アル・シャルキア文化・開発協会」「アル・ワリード慈善団体」と提携し、各団体の子どもたちと職員を裨益者として事業を展開する。 <u>1-1. 子どもたちを対象とした心理社会的ケアプログラムの実施</u> 9 歳～14 歳の子どもたち 95 名を対象にプログラムを実施する。各クラス週 1 回 90 分間のワークショップを、年間 35 コマ開催する。（添付資料①参照） <u>1-2. 子どもたちを対象とした相互理解クラスの実施</u> 夏季に、1-1 の子どもたち全 95 名を集めた 1 週間の集中ワークショップを行う。子どもたち同士の共同作業や分かち合いを通して、自己のより深い内的洞察を行い、心的外傷および PTSD から自らを守れる力を身につける。 <u>1-3. 関係者・関係機関との連携活動</u> 1-1 の子どもたちの家庭訪問や学校訪問を行い、周囲環境や家族関係などを把握し、日々のワークショップでの働きかけに役立てる。また、年間 4 回、家族意見交換会を開催し、保護者に当プログラムへの理解を促すことで、家庭での適切なフォローアップに繋げる。 <u>1-4. 心理社会的ケア実践者の育成</u> 各提携団体の職員それぞれ 6 名、合計 18 名を研修生とし、年間を通して研修を行う。研修生はそれぞれ、週 1 回の実践者育成講座（座学）を受け、週 1 クラス 1-1.のワークショップ実践研修を行う。（添付資料①参照） また、事業最終月にあたる 2 月に、研修生の評価のため日本から専門家を派遣し、3 日間の最終トレーニングを行なう。 2. ヨルダン川西岸地区における心理社会的ケアの実践と人材育成 ラマッラ市の NGO "Nafs for Empowerment"（以下「ナフス」）との連携し、事業を展開する。 <u>2-1. 子どもたちを対象とした心理社会的ケアプログラムの実施</u> 各難民キャンプにて UNRWA(※)の小学校に通う 5 年生の子どもたち計 96 名を対象にプログラムを実施する。各クラス週 1 回 90 分間のワークショップを年間 31 コマ開催する。（添付資料①参照）
----------------	--

(※)UNRWA（ウナルワ）…国連パレスチナ難民救済事業機関。パレスチナ難民キャンプの住民に対し、教育・保健・社会福祉など基礎的なサービスを提供している機関であり、当事業の西岸地区における重要なステークホルダーである。

	<u>2-2. 関係者・関係機関との連携活動</u> 2-1 の子どもたちの家族や学校、UNRWA の関係諸部門との連携を密にし、子どもたち自身に関する情報や、子どもたちを取り巻く環境についての情報収集を行なう。また、必要かつ可能なアクションの相互確認を行ない、協同によるより包括的なケアを実施できるよう、連携活動のイニシアティブを取ることを目指す。 <u>2-3. 心理社会的ケアプログラムの普及と実践者育成</u> UNRWA のスクールカウンセラー等、当プログラムの実施と普及を期待できる対象者に対してトレーニングを行なうことで、心理社会的ケアについての正しい理解の流布と、実践者の育成、更に、心理社会的ケア実践者のネットワーク構築を目指す。 トレーニングは計 4 回実施し、最初の 3 回は夏季休暇で子ども達を対象とした心理社会的ケアプログラムが休みとなる 6-8 月に各月 1 回ずつ、最後の 1 回は一年間のまとめとして事業最終月となる 2 月に行なう。トレーニングの期間はいずれも 5 日前後とし、各回の目標参加者数は 15 名とする。なお、7 月と 2 月は中間・最終トレーニングとして、トレーニングの質確保と参加者の評価のため日本から専門家を派遣する。 プログラムの普及と実践者のネットワーク構築に関しては心理社会的ケアの分野で活動する関連機関・団体とのミーティングも実施することとし、また、同ミーティングによってより波及効果の高いトレーニング参加者のマッピングを行なう。 <u>2-4. 心理社会的ケアシンポジウムの開催</u> 心理社会的ケアについての正しい理解とその実践的プログラムの普及を目指して、一年の締めくくりに関係機関を招いたシンポジウムを開催する。 <u>総裨益人口： 7,241 人</u> <u>直接裨益人口： 269 人</u> 子どもたち： ガザ地区 95 人 + 西岸地区 96 人 = 191 人 ガザ地区研修生 18 人 + 西岸地区トレーニング参加者 60 人 <u>間接裨益人口： 6,972 人</u> プログラムに参加した子どもたちの家族（平均 7 人）へケア効果が波及 両地区子どもたち： 191 人 × 7 人 = 1,337 人 プログラムに参加した子どもたちの友達（平均 5 人）へケア効果が波及 両地区子どもたち： 191 人 × 5 人 = 955 人 トレーニング参加者が本事業外の子どもたち（平均 60 人）にケアを行う ガザ地区研修生： 18 人 × 60 人 = 1,080 人 西岸地区トレーニング参加者： 60 人 × 60 人 = 3,600 人
--	--

7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	【これまでの成果】 1. 心理社会的ケアプログラムの実施と子どもたちの変化 ガザ地区・西岸地区双方において、家族からの報告により、プログラムに参加した子どもたちの日常的な素行に改善がみられることが分かった。 また、西岸地区のワークショップにて、子どもたち自身から、心の内を吐き出せる場としてこのプログラムを信頼していることが伺える発言が見られた。 2. 関係者・関係機関との連携 西岸地区にて、子どもたちの家族を対象とした説明会の開催や、UNRWA の教育プログラムとのミーティング等を通し、本事業が現地のニーズに即したものであることを確認し、今後の連携強化について前向きに話し合うことができた。 3. 心理社会的ケアプログラムの普及と実践者育成 ガザ地区の研修生より、「ワークショップを実践するにつれ、講習のみでは理解しづらかった理論を肌身で感じることができ、大変に充実した研修である」とのフィードバックを得た。また、当プログラムの実践において、子どもたち個々の記録を取り、ワークショップ外でのフォローを行う事も重要であるが、当初、ガザ地区の提携団体からは「記録を取る作業は無償の業務とみなされ研修生が嫌がる傾向がある」と指摘された。しかし、研修生は子どもたちの記録を取る事に自ら取り組み、よりの確なケアができる様にスタッフにアドバイスを求めるなど、真摯に学びを深めており、有益な人材育成となっていると言える。 西岸地区では、UNRWA のエルサレム地区のスクールカウンセラーを対象に心理社会的ケアプログラムのトレーニングを開催したところ、別の地区でも同様のトレーニングの実施依頼が来た。また、普及活動の一環として、地元ラジオ局で当プログラムの紹介を行った。 【課題・問題点と今後の対応策】 1. ガザ地区 (課題・問題点) ガザ地区の実践者研修において、長きに渡って当プログラムを実践できる人材として、20 代の若い研修生を育成している。しかし、将来、地域に当プログラムを普及させるには、若い研修生のみでは影響力が弱いと提携団体に指摘された。 (対応策) 当初、ハインユニスの提携団体を年度ごとに変える予定であったが、1 年次から継続して同じ団体と提携する方向に変更。提携団体が地域における当プログラムの発信拠点となる事を目指し、ベテラン職員や団体幹部を積極的に巻き込んで事業を展開し、提携団体へ確実に当プログラムの技術移転を行う。 2. 西岸地区 (課題・問題点) 子どもたちのトラウマレベルが想定を上回っており、これに関連して素行が荒い子どもが目立つなど、当初、心理社会的ケアプログラムをまともに実施できない状況であった。また、家族が心理社会的ケアに対して偏見を持っており、子どもたちの安定したプログラム参加継続が困難になっているケースがある。 (対応策) 1 グループにおける子どもの数を 1 年次の約半分に縮小し、補助的ワークショップをプログラムの最初に開催する。更に、ファシリテーターの増員および技術強化を積極的に行い、よりきめ細かなケアを行う。また、家族とのミーティング（親子ワークショップも検討）を増やして全体的な理解を高めると共に、個別対応を継続する。
--------------------------------	--

8. 期待される成果と成果を測る指標	【上位目標】 子どもたちの心的外傷（トラウマ）ケアが実現され、PTSD の予防・症状改善が実現する。 活動地において心理社会的ケア実践者が養成され、地元の人々の手によってケアを継続できる。 【各事業内容における成果を測る指標】 <u>1-1. 子どもたちを対象とした心理社会的ケアプログラムの実施（ガザ）</u> <u>1-2. 子どもたちを対象とした相互理解クラスの開催（ガザ）</u> <u>2-1. 子どもたちを対象とした心理社会的ケアプログラムの実施（西岸）</u> ・ GHQ（一般健康質問紙）テスト、PTSD の 3 大症状およびその他関連症状のチェックシートにて評価を行い、全ての子どもたちについて、メンタルヘルスに関する 1 つ以上のチェック項目の改善がみられる。 ・ ナラティブ・レポートにて各地区 2 例以上の改善例を報告する。 <u>1-3. 関係者・関係機関との連携活動（ガザ）</u> <u>2-2. 関係者・関係機関との連携活動（西岸）</u> ・ 実施した関係者ミーティングの数／ ガザ地区 16 回 西岸地区 18 回 ・ 50%以上の関係者・関係機関の対応改善がみられ、実施された対応を各地区 1 事例以上報告する。 <u>1-4. 心理社会的ケア実践者の育成（ガザ）</u> ・ ファシリテーター評価基準の有無／新規作成 1 ・ 心理社会的ケアプログラム理論理解テストの有無／新規作成 1 ・ 事業終了時に、研修生に理解度テストを課し、さらにファシリテーション能力評価を行い、全研修生が 8 割以上の点数を取る。 ・ 提携団体が当事業外で心理社会的ケアプログラムの一部を実施し、最終報告時に 2 事例以上報告する。 <u>2-3. 心理社会的ケアプログラムの普及と実践者育成（西岸）</u> ・ ファシリテーター評価基準の有無／新規作成 1 ・ 心理社会的ケアプログラム理論理解テストの有無／新規作成 1 ・ トレーニングの開催数・参加者数／4 回・60 人 ・ トレーニング開始前後に理解テストを行い、参加者全員に改善がみられる。 ・ トレーニング後、50%以上の参加者が心理社会的ケアプログラムの一部を実施する。 ・ 心理社会的ケアファシリテーターネットワークの有無／新規構築 1 ・ 心理社会的ケア分野の関連機関・団体とのミーティングの数／6 回 <u>2-4. 心理社会的ケアシンポジウムの開催（西岸）</u> ・ 参加団体数・参加者数／5 団体・70 名 ・ メディア露出数／地元新聞 1 社以上、参加者の 20%以上による Facebook 投稿 ・ 50%以上の参加者から、シンポジウムが「有益であった」との評価を得る。
---------------------------	--